

## ミネラル調味料・発酵調味料の大切さ

長崎原爆の時に秋月辰一郎博士が食事の工夫でたくさんの被爆者を救いました。ご存知ですか？  
今は福島原発未解決のままの状態なので、もう一度いい塩、発酵味噌、調味料を見直してください。

1945年8月9日、長崎に原爆が投下された。その爆心地から、たった1.4kmのところ、**当時浦上病院院長であった秋月辰一郎博士と病院関係者は全員被爆した。**

博士は焼けただれて痛がる人々に、「**水を飲んではいかんぞ!**」と大声でどなった。  
さらに博士は、次のように職員に命令した。

「**爆弾をうけた人には塩がいい。玄米飯にうんと塩をつけてにぎるんだ。塩から味噌汁をつくって毎日食べさせる。そして、甘いものを避ける。砂糖は絶対にかんぞ!**」

「放射線宿酔」と呼ばれる。レントゲンを受けたあとに起こることがある全身の倦怠や筒宇などの症状には、体験上、**生理食塩水より少し多めの塩分を含んだ水を飲むとよい**ということをとっさに思い出し、原爆の放射能から体をガードするには、**塩が有効であることを推理したのだ。**

みそ汁の具は、**カボチャ**であった。のちに**わかめ**のみそ汁も多くとっらしい。

砂糖を禁じたのは、砂糖は造血細胞に対する毒素であり、塩のナトリウムイオンは造血細胞に活力を与えるという、彼自身の食養医学によってである。

すると、どうであろう。そのとき患者の救助にあたったスタッフらに、原爆症の症状が出なかったのである。ふつうなら、しだいに原爆症の症状が出て、進行してしまうところなのに、彼らはそれからのち、**ずっと現実に生き延びているのである。**

博士は人間の体質にとって、**みそ**が実に大切であることを説き、のちにこう語っている。

「この一部の防禦が人間の生死の境において極めて重要なのである」

博士の書いた「長崎原爆体験記」という本の英訳版が欧米で出まわり、チェルノブイリ原発事故のあと、ヨーロッパで日本の「みそ」がとぶように売れたということはあまり知られていない。秋月博士は、「**体質医学**」の大切さを主張し、次のように言っている。

「それは、人間の体質を作り変えることが医学の本然の姿であるという信念による。人間の体質を作り変えて、病気にかからなくてすむ身体、また病気にかかっても軽くて治る身体になることである。また、慢性疾患に罹患していても、体質を変えていつの間にか病気が離れる身体になる、この医学である。」

(秋月辰一郎著「死の同心円ー長崎被爆医師の記録」「体質と食物」より)

マザーソルト	波動法の塩	EMの生塩	キパワーソルト	EMミネラル
 432円、1512円、2700円	 972円	 1029円、3600円	 1620円	 4628円
マザーミネラル	マザーシロップ	喜界島粗糖	無農薬菜種油	味醂
 2916円	 1458円	 550円	 2376円	 875円、1868円
EM醤油	無農薬EM醤油	ヤマヒサ醤油	富士酢	八方だし
 617円	 1980円	 1620円	 1188円、1944円	 972円